

第3章 流域の社会条件

3-1 土地利用

大井川流域の土地利用は、山林が全体の 90%以上を占め南アルプス南麓に位置する特徴を表している。特に川根本町、静岡市井川地区では山林面積が 90%以上占めている。下流域の大井川町、吉田町では、農地や宅地が多く占めている。また、島田市の丘陵地には茶畑や針葉樹林や広葉樹林の山林が入り込んで広がっている。

表 3-1 流域関連市町の土地利用状況（私有地）(ha)

	市町村名	山林	農用地 (水田、畑)	住宅地	その他	合計
上中流域	静岡市	522	54	38	15	628
	川根本町	107	7	2	2	118
	川根町	65	4	1	1	71
	小計	694	65	40	17	816
下流域	島田市	78	33	14	5	129
	藤枝市	56	31	16	6	110
	大井川町	0	8	6	1	15
	吉田町	0	5	3	2	10
	小計	134	77	39	14	264
合計		828	142	79	31	1,080

「市町村別固定資産税評価総地積(私有地)H14」より

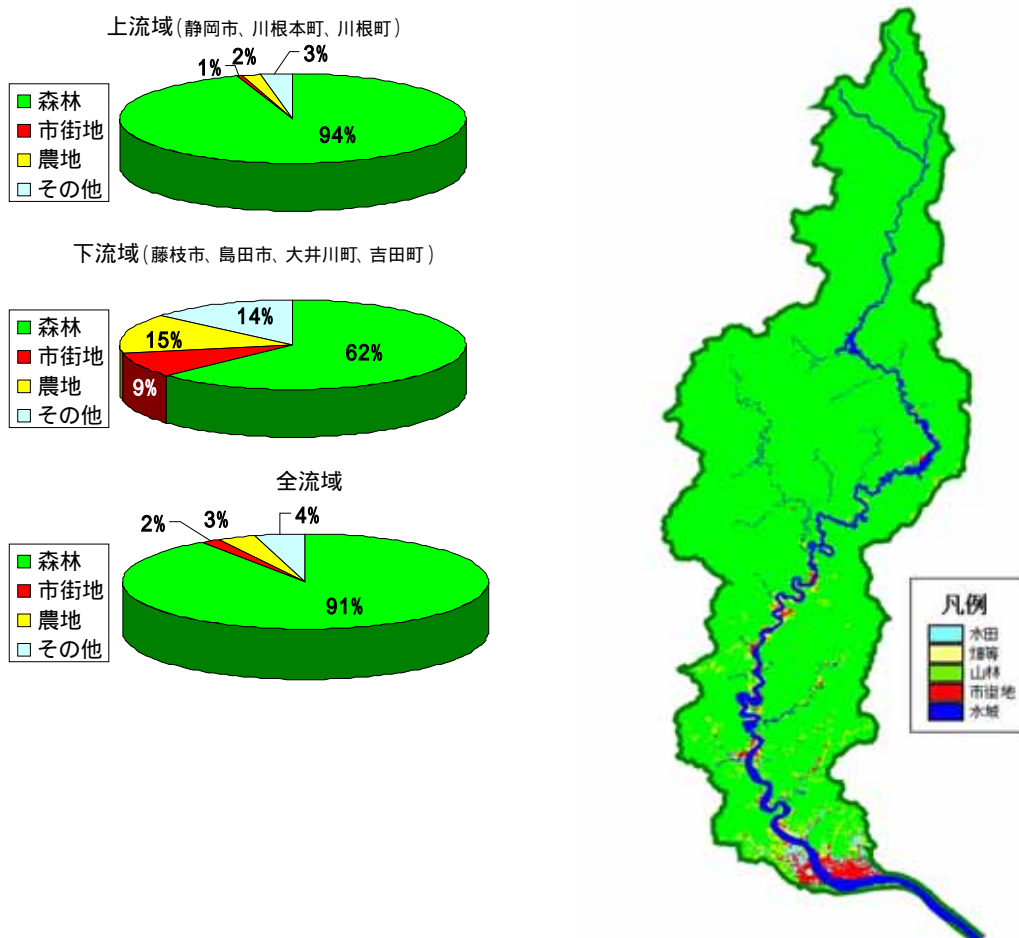


図 3-1 大井川流域関連市町より地目別面積(平成 9 年土地利用メッシュ)

3-2 人 口

静岡県中部に位置する大井川流域内の市町は、静岡市、島田市、藤枝市、大井川町、吉田町、川根町、川根本町の3市4町で、平成13年の流域内人口は約88,000人である。

また、流域の人口の推移を見ると、上中流域（静岡市井川地区、川根町、川根本町）は減少の傾向にあり、行政・経済の中心である下流域（島田市、藤枝市、大井川町、吉田町）では増加の傾向にある。

表 3-2 大井川流域内人口推移表

年	大井川流域	
	人口(人)	人口密度(人/km ²)
1972年(昭和47年)	110,745	87
1978年(昭和53年)	112,374	88
1985年(昭和60年)	90,600	72
1988年(昭和63年)	91,343	72
1997年(平成9年)	89,980	71
2001年(平成13年)	88,083	69

)出典：河川現況調査

表 3-3 流域関連市町の人口の推移（H17国勢調査速報値）

	市町村名	行政区域面積 (km ²)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成17年 (人)	H17人口密度 (人/km ²)	H7/H2	H12/H2	H17/H2
上中流域	静岡市井川地区	499	1,055	914	784	722	1.4	86.6%	74.3%	68.4%
	川根本町	497	11,126	10,687	9,785	8,988	18.1	96.1%	87.9%	80.8%
	川根町	120	7,291	6,979	6,500	6,030	50.0	95.7%	89.2%	82.7%
	小計	1,116	19,472	18,580	17,069	15,740	14.1	95.4%	87.7%	80.8%
下流域	島田市	195	95,858	96,511	96,093	96,071	491.7	100.7%	100.2%	100.2%
	藤枝市	141	119,815	124,822	128,477	129,256	918.4	104.2%	107.2%	107.9%
	大井川町	25	22,022	23,152	23,214	22,997	937.1	105.1%	105.4%	104.4%
	吉田町	21	25,147	26,475	27,492	28,648	1,374.7	105.3%	109.3%	113.9%
	小計	382	262,842	270,960	275,276	276,972	726.0	103.1%	104.7%	105.4%
合計		1,498	282,314	289,540	292,345	292,712	195.4	102.6%	103.6%	103.7%

1 平成17年のデータは国勢調査の速報値を使用。

2 静岡市井川地区のデータは平成17年9月30日時点の静岡市統計データを使用。

3 川根本町、島田市の平成12年以前のデータは、単に合併前市町の累計値を使用。

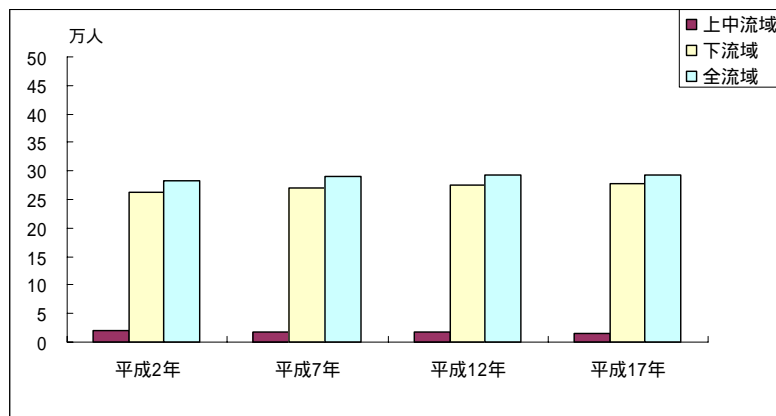


図 3-2 流域関連市町の人口の推移

3-3 産業・経済

大井川流域の第1次産業を特徴づけるものとして、茶業があげられる。茶の栽培は古くから銘茶の産地である中流域の川根地域から、下流域の牧之原大茶園まで、広範囲にわたっている。また、山林の占める割合が多く、昔は良質の木材の産地であったが、現在では林業の形態も変わり、木材の生産はほとんど行われていない。他にはみかん、しいたけ、わさびなど山村を代表する作物が栽培されている。

下流域の吉田町、大井川町では豊富な地下水を利用してうなぎの養殖が発達してきた。収穫量は、浜名湖周辺市町の合計より少ないものの、市町単独では大井川下流の吉田町が静岡県内で第一位の生産量を誇っている。大井川河口付近における水産業はサクラエビ、シラスの曳網や、刺し網、一本釣り等の沿岸漁業が知られている。

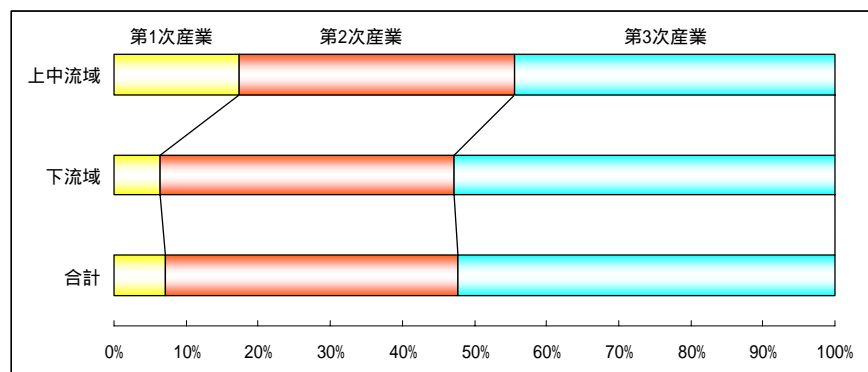
近年では、豊富な地下水を利用した製薬、化学、製紙業、食品加工業の工場が大井川下流域に進出している。

表 3-4 大井川流域関連市町村産業別就業者数(平成12年)

	市町村名	第1次産業 (人)	第2次産業 (人)	第3次産業 (人)	合計 (人)	第1次産業 (%)	第2次産業 (%)	第3次産業 (%)	備考
上中流域	静岡市井川地区	7	155	325	487	1.4%	31.8%	66.7%	
	川根本町	934	1,925	2,458	5,317	17.6%	36.2%	46.2%	旧本川根町、旧中川根町
	川根町	708	1,545	1,438	3,691	19.2%	41.9%	39.0%	
	小計	1,649	3,625	4,221	9,495	17.4%	38.2%	44.5%	
下流域	島田市	4,673	21,802	26,212	52,687	8.9%	41.4%	49.8%	旧島田市、旧金谷町
	藤枝市	3,246	25,513	39,588	68,347	4.7%	37.3%	57.9%	
	大井川町	931	5,363	6,431	12,725	7.3%	42.1%	50.5%	
	吉田町	811	7,975	6,479	15,265	5.3%	52.2%	42.4%	
	小計	9,661	60,653	78,710	149,024	6.5%	40.7%	52.8%	
合計	11,310	64,278	82,931	158,519	7.1%	40.5%	52.3%		

静岡市井川地区については、平成13年の静岡市統計データを使用

図 3-3 流域内市町産業別就業者人口の構成比(平成12年)



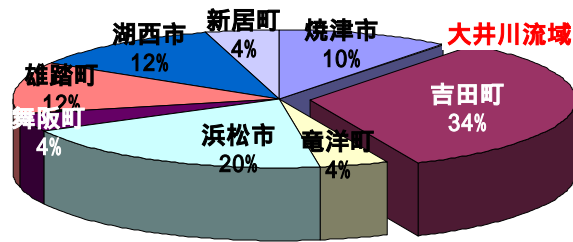


図 3-4 静岡県内におけるウナギ養殖収穫量比率
「静岡県農林水産統計年報（水産編）H18.3」

表 3-5 主な特産物

市町村名	特産物
静岡市	茶、イチゴ、わさび、みかん、レンコン、バラ、まぐろ、竹細工、漆
川根本町 旧本川根町	川根茶、しいたけ、わさび、もみじ寿司、茶ようかん
川根本町 旧中川根町	川根茶、しいたけ、大井川材、自然薯、よもぎまんじゅう
川根町	川根茶、炭、しいたけ、大井川材
島田市 旧金谷町	金谷茶、志戸呂焼、茶ようかん
島田市 旧島田市	茶、バラ、レタス、木工製品
藤枝市	藤枝茶、藤枝桐ダンス、藤枝ダルマ、地酒、しいたけ
大井川町	うなぎ、桜エビ、イチゴ、トマト、志太梨、シラス
吉田町	うなぎ、かりんとう、しらす、メロン、レタス

3-4 交 通

江戸時代、東海道は島田～金谷間で大井川を越える際、川越人足による川渡しが唯一の手段であり、天候に左右され、自由な往来が困難であった。その後、明治の初めに谷口橋や蓬莱橋の架橋や渡船によって川越制度はその役割を終えた。

現在、大井川流域の幹線道路としては、下流域には河口部から国道 150 号、国道 1 号・同バイパス、上流部には国道 362 号が走り、東西交通のパイプとなっているが、比較的
道路網の発達している下流部においても、大井川がネックとなって、交通の流れは良くない。

大井川流域の南北交通については、大井川沿川の道路が中心となるが、また、山間部で平坦地が少なく、道路整備の困難性もあって道路整備率は高くない。

また、鉄道は、東西に JR 東海道新幹線、JR 東海道本線が走るほか、南北には、新金谷駅を起点として SL を運行している大井川鐵道本線が千頭まで、さらに同鉄道井川線が千頭から井川まで伸びており、本線・井川線合わせて年間約 165 万人の乗降客がある。

東海道新幹線や東名高速道路、建設中である第二東名高速道路も流域内を東西に通過し、交通の要衝となっている。



図 3-5 大井川流域と周辺の交通